

高校生 まちづくりスクール 活動報告

プロジェクト編



■参加高校
静岡県立科学技術高校
静岡県立静岡商業高校
静岡県立駿河総合高校
静岡サレジオ高校
静岡聖光学院高校
静岡雙葉高校

■学年
1年生2人、2年生4人、3年生3人

■修了生の声

- チラシの作成から連絡、企画のアドバイスなど何度も助けてもらいました。相談しやすく、ありがたかったです。
- 「やることが分からない…」 「困った!」という時に答えを教えるのではなく、ヒントを教えてくれるのが自分のためになるのでうれしかったです。

ビジネス編



■参加高校
静岡県立静岡商業高校
静岡県立静岡城北高校
静岡県立清水東高校
静岡県立清水南高校
静岡市立清水桜が丘高校
静岡サレジオ高校 / 静岡雙葉高校
静岡県立浜松湖北高校

■学年
1年生5人、2年生2人、3年生9人

■修了生の声

- 他校の人と関わる機会はありませんが、また、講師の方々からアドバイスをいただける機会もないため、貴重な経験をさせていただきました。
- 学校では中々できない探究活動だと思うので、この経験は今後の自分の自信になると思いました。
- 大学での学びや将来の職に繋がれる力がついたと思います。



「高校生まちづくりスクール」は、「静岡シチズンカレッジ こ・こ・に」の講座として開講されています。



主催・問合せ

プロジェクト編 静岡市 こども若者応援課 TEL.054-221-1698

ビジネス編 静岡市 生涯学習推進課 TEL.054-221-1207



プロジェクト編

カリキュラム

- 第1回 7/26 自分を発見しよう!
- 第2回 7/27 まちづくりってなに?
- 第3回 8/17 マイプロジェクト会議①
- 第4回 10/5 中間報告会
- 第5回 10/26 マイプロジェクト会議②
- 第6回 11/30 公開プレゼン!



ビジネス編

カリキュラム

- 第1回 7/5 プランニングのコツを学ぼう!
- 第2回 7/19 チームビルディング
- 第3回 8/2 プランを深めよう!
- 第4回 8/16 プレゼンしてみよう!
- 第5回 8/23 公開プレゼン!



プロジェクト編

発表内容

“まちづくり”を自分の興味関心から考え、解決のための“プロジェクト”を自分たちで企画・実践する全6回講座

▼HPIはこちら



Shizuoka Connect



中高生が地元企業の魅力を知り、働くことを自分事として考えるきっかけをつくるため、「0→1ラボ」を開催しました。経営者の話を聞き、「自分が社長ならどんな商品やサービスを生み出すか」をテーマにグループでアイデアを出し合うワークショップを実施。自由な発想で挑戦する中で、自分の強みを見つけ、チームで協力する楽しさを実感しました。働くことを身近に感じ、地元企業の魅力を知ることによって、進路を考えることができました。

しずおか宣伝部



案内不足で困る観光客を見た経験から、地元の魅力再発見を目的に「高校生まちかどフォトコンテストin駿河区」を企画しました。「自分しか知らない駿河区の魅力」をテーマに高校生が撮影した写真を募集し、スルガフェスで展示、来場者投票で最優秀賞を決定しました。高校生は地域の魅力を発見し、投票者も新しい視点に触れる機会となりました。また、学校の垣根を越えた運営チームでの活動は、多角的な視点や伝える力を養う経験となりました。

自然と遊び隊



授業で学んだ「現代の子どもの外遊び減少」という課題を解決するため、あさはた緑地を舞台に、テレビゲームから離れて、親子で楽しめる宝探し企画を立案しました。ヒントを頼りに園内を巡り言葉を完成させるゲームを通じ、外遊びの魅力を再発見する機会を設けた結果、当日は想定以上の家族が参加しました。事故やケガもなく、多くの子もたちから「楽しかった」という声を得られ、外遊びの価値を伝えるという目標を達成できました。

防災の輪



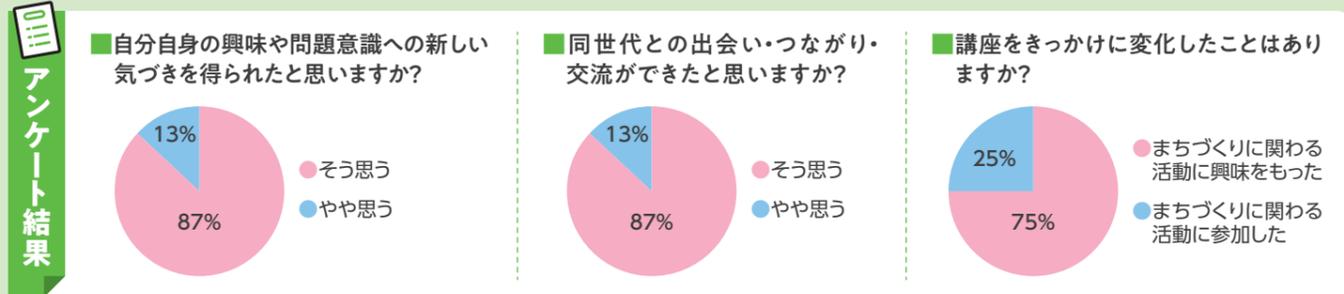
通学中の東海道線で大地震・津波に遭遇した際の避難行動をテーマに調査を行いました。静岡市への取材から、避難施設は整備されているものの「場所の把握」が課題だと判明したため、各駅からの避難経路を示す自作サイトを構築しました。今後は、アンケート結果を活かしてサイトをより見やすくし、学校や市役所と連携して「ケガ人ゼロ」を目指す情報発信に取り組んでいきます。

講師メッセージ

鈴木 貴司 さん
NPO法人 わかものまち



今年度のまちづくりスクールでは4つのチームに分かれ、地域の団体や企業、学校そして行政の皆様との協働を通じて、それぞれの企画を実現することができました。参加者同士も非常に仲が良く、互いのプロジェクトに協力し合う姿もあり、まちづくりスクールが「共にまちをつくる仲間」に出会う場となったことを心から嬉しく思います。全6回のプログラム終了後も、自発的に活動を続けているチームもあり、何かを形にしてみる事が次のアクションへと繋がる大きな第一歩となりました。この経験をこれからの糧に、ぜひ今後も主体的にまちと関わり、活動を広げていってほしいと願っています。



ビジネス編

発表内容

市内で活躍する企業人にアドバイスをもらい、仲間と共に“地域や社会の困りごと”から“ビジネスプラン”を考案する全5回講座

▼HPIはこちら



静岡情報誌 #Shizu Shizu



高校生目線で静岡の魅力を発信する電子ムック「#Shizu Shizu」を企画しました。インスタでは得られないお店のこだわりやおすすめメニューを掲載し、遊び場のマンネリを解消。アンケートやインタビューで集めた情報をもとに編集し、カラー加工した誌面を作成しました。電子ムックを販売することで、地元の魅力を再発見し、就職先に静岡を選んでもらうことを目指します。

シュワシュワ広がる静岡市の魅力



静岡市の観光客の消費額が少ないことに課題を感じ、お茶や桜えびなど地元の魅力を形にして静岡らしさあふれる「ながら発見!しずQポム」を制作。静岡のおすすめスポットを紹介する動画を撮影し、二次元コード化したものを、バスポムの中に閉じ込める仕掛けを考案しました。市内ホテル向けの販売やお土産販売で収益を生み、地域経済を循環させ、地域の発展を目指します。

しずおか好き友プロジェクト



友達と趣味が違うせいで、共通の話題を話せなかった経験や、同じ趣味を通じて高校生同士をつなぐイベントを企画しました。カラオケや天体観測、キャンプなど多彩な趣味で学校外のコミュニティを創出。事前アンケートによるグループ分けや緊張をほぐす工夫を取り入れ、楽しく交流できる場を提供します。参加費やスポンサー協力で収益を確保し、好きを通して学校以外の居場所をつくります。

ASM^{チャ}茶ール 音で味わう茶



静岡の強み「お茶」と人気コンテンツASMR(癒しの音)の動画を融合した新しいプロモーションを提案しました。お茶を淹れる音や茶畑の環境音を二次元コードから楽しめる仕組みを考案し、リラックス体験を提供。さらに体験型イベントで交流を深める工夫も計画。イベント参加費や関連商品の販売で収益を生み、観光促進とまちづくりに貢献します。

回して使える!ピンチャーム防災



防災意識を高めるため、災害時に役立つアイテムをキーホルダー化した「ピンチャーム」を考案しました。「ピンチャーム」は、「ピンチに備える」という意味と、「チャーム(飾り)」を掛け合わせた造語です。笛やミニノートなど実用性の高いアイテムをミニチュアサイズにしてファッション性を高めたものをガチャガチャで販売し、若者に防災を身近に感じてもらうことを目指します。

ぼくたちがやります!どぶさらい!



高齢化で地域での負担が増す側溝清掃や草刈りを高校生がサポートするプロジェクトを立ち上げました。安全対策や自治会との連携で信頼性を確保し、地域活動の継続を支援。アンケートや現場体験を通じてニーズを把握し、若い力で地域コミュニティを守ります。作業を有料で請け負うことで収益を得て、持続可能な仕組みづくりを目指します。

講師メッセージ

飯倉 清太 さん
静岡大学 未来社会デザイン機構 客員教授



静岡市の地域課題を「ビジネス」という視点で解決する企画を立てる。これは大人でも難しいテーマですが、全5回という限られた時間の中で、本当によくまとめ上げたと感じています。ビジネスを経験したことのない高校生が最初に立案したアイデアは、当初「机上の空論」に近いものでした。しかし、仲間同士で議論を重ねる中で「このままでは実現できない」という違和感に気づき、そこに講師陣のアドバイスが加わることで、少しずつ実現可能な計画へと変わっていきました。修正した企画をもとに、現場へのインタビューや動画制作、実際の作業など、身体を動かして取り組んだことが大きな気づきになったと思います。実体験を経たからこそ、公開プレゼンテーションでは全員が「自分のコトバ」で語ることができていたのだと思います。「お金を稼ぐ」ことの難しさや現実を肌で感じたこの経験を、ぜひ今後の人生に活かしてほしい。心からそう願っています。

